

## 気仙地域呼吸器診療講演会 抄録

2020年10月1日

気仙沼市立病院 呼吸器内科 千葉茂樹

### 演題名: 当院における新型コロナウイルス感染症(COVID-19)対応について

2種感染症指定医療機関であり、院長(コロナ対策本部長)、副院長(感染管理室長)ともに2020年年始より、情報に敏感であった。2020年1月21日の厚労省通達を受けて、2月から帰国者接触者外来(帰接外来)の設置。呼吸器内科2名で対応した。

#### ・2~3月

気仙沼保健所と地域3病院でパンデミック時の体制の相談、準備が行われた。協力体制は非常に良好で円滑であった。

3月4日、当院第一回新型コロナ対策本部会議開催、面会制限、状況に応じたシミュレーション(動線確認、重症挿管、分娩、パンデミックの際のチーム体制など)開始。

#### ・4月

5日、県内患者の受け入れ。その翌日の6日、気仙沼1例目陽性確認。患者が多数発生への恐れがあり、1病棟全体(50床)をコロナ対応で管理区域化したが、実際は2床のみの稼働で赤字となった。経緯を受けてトリアージの厳密化(院外テントでの問診)を開始した。

#### ・5月~7月

流行地への移動歴のある患者は積極的にPCR検査を行った。5月下旬に抗原迅速検査導入、気仙沼医師会による発熱外来開始(水曜、金曜)。7月中旬、県内発生患者の受け入れ。

#### ・8月

8月3日、気仙沼2例目、抗原キット検査で陽性確認。同日、保健所が濃厚接触者を特定。3日間で計3名が感染確認、入院となった。一部症例は肺炎があるが呼吸不全はなく、大きなSpO<sub>2</sub>低下は来さなかったものの、発症10日目以降も咳症状、倦怠感が強く、油断できない状況が続いたが、それ以上の悪化はなく下旬には無事退院となった。気仙沼市2~4例目発生では、抗原キット検査が非常に有効であった。3名のCOVID入院患者+帰接外来+一般診療を呼吸器内科2名で対応したが、今後に備え一部を院内医師全体での当番制とした。

医療圏内での役割分担、連携と事前の相談が重要でこれからの各地域でのパンデミックに備えて体制の準備を加速していく必要がある。